

◇ ご利用案内 ◇ Usage Guidance

\* 営業時間

24時間365日

\* サービス実施地域

原則、川越市・狭山市

\* 施設送迎時間

原則、月～土・午前8:30～午後6:00まで

\* 食事ご提供時間

- ・朝 食…午前 7:30～午前8:30
- ・昼 食…午後12:00～午後1:00
- ・おやつ…午後 3:00～午後4:00
- ・夕 食…午後 6:00～午後7:00

\* 入浴ご利用時間

原則、午後2:00～午後4:00まで

\* ご利用対象者

- ・要介護1～要介護5の方
- ・要支援1～要支援2の方  
(要介護認定申請中の方もご利用可能)

\* お問い合わせ先

- ・TEL 049-247-7311(代)  
月～金・午前9:00～午後6:00まで
- ・E-mail soudan3@houseikai-y.jp

◇ 発行・編集 ◇ Publisher

発行 社会福祉法人 芳清会  
ショートステイ八瀬の里  
〒350-1172  
埼玉県川越市大字増形164番地  
TEL 049-247-7311(代)  
平成27年1月15日 発行  
発行人・編集人 佐藤 嘉昭

◇ 交通案内 ◇ Access

電車の場合

- \* 西武新宿線「南大塚駅」より車で約8分
- \* 西武新宿線「南大塚駅北口」より徒歩  
で約20分
- \* JR川越線「的場駅」より車で約20分

自動車の場合

- \* 関越自動車道「川越I.C」より狭山市方  
面へ約10分 ※駐車場50台



◇ 地図 ◇ Map



No. 1

# ショートステイ

2015年1月号

# インフォメーション

Short Stay  
2015. January  
Information

◇ 本号の内容 ◇ CONTENTS

はじめに

旧号『ショートステイだより』は廃号となりました。本号から新たに『ショートステイ インフォメーション』として介護や医療その他の情報も皆さまにお届け致します。

今後どうぞ宜しくお願い致します。

- 01 インフルエンザについて
- 02 サイバーウォーズ時代
- 03 その他(ご利用案内など)

## ☑ インフルエンザについて

風邪とインフルエンザの原因と症状は異なります。「風邪」は、のどの痛み、鼻水、咳などの症状を伴う呼吸器の急性炎症です。発熱、頭痛、食欲不振などが起こることもあります。

「インフルエンザ」は、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。普通の風邪よりも急激に発症し、症状が重いのが特徴です。インフルエンザに感染すると、1日から5日間の潜伏期間後に、38℃以上の高熱や筋肉痛などの全身症状が現れます。健康な人であれば、その症状が3日～7日間続いた後に、治癒に向かいます。気管支炎や肺炎など併発しやすく、脳炎や心不全になる場合もあります。

日本では毎年11月～4月に流行が見られます。2009年の「新型インフルエンザウイルス」が流行したことはまだ記憶に新しいと思います。

### \* インフルエンザの特徴

- ・潜伏期間 1日～3日
- ・感染経路 飛沫感染(くしゃみや咳など)
- ・発症 急激に38℃以上の高熱
- ・症状 悪寒、頭痛、関節痛、倦怠感などの全身症状や咳、痰、呼吸困難、腹痛、下痢など
- ・療養期間 1週間ほど

### \* インフルエンザをご利用中に発症された場合またはその疑いがある場合

- 1 症状等の状態について、ご家族様へ連絡し速やかにかかりつけ病医院へ通院いたします(※施設で医療機関への送迎等は自費)。

- 2 その医療機関でインフルエンザが認められた場合は、そのままご帰宅(ご退所)となりますので、ご了解ください(介護施設において、それを機に感染症がまん延し生命・健康に重大な悪影響が起こります)。
- 3 上記2の通り、ご帰宅(ご退所)された後、同居されているご家族様も医療機関へインフルエンザの検査等を行い、概ね7日間において、これら症状が現れない場合は再度ご利用できます。
- 4 インフルエンザとは異なり、他の感染症の症状が現れた場合またはその疑いがある場合も同様に対処いたしますので、ご協力・ご理解の上、宜しくお願い致します(ご面会をご遠慮して頂く場合がございます)。
- 5 その他、ご利用中において他ご利用者様への影響等を考慮し、速やかに医療機関へ通院およびご利用場所の制限(居室等の特定場所に限り)等の対応いたします。

## ☑ サイバーウォーズ時代

### \* 信頼できないインターネット

昨今のベネッセの顧客情報持出のような事件は、言い方は悪いが、分かり易い情報セキュリティインシデントである。金銭目的の内部犯行によるデータ持出は規模は異なるものの、会社の備品をこっそり持出して売ってしまうといった不正行為に共通するものがある。

これに対して、サイバーセキュリティのインシデントは発見されにくく、対応が遅れることがある。その結果、多くの方がインターネットに不信感や不安感を抱いているのではないか…。それは、利用者によって程度の差こそあれ、インターネットが生活の一部として浸透していることを認識している為、一旦問題が起これば自分自身も多大な影響を免れないと感じていることもあるだろう。

### \* LINE タッピング疑惑騒動

韓国政府の国家情報院が、LINEで通話される全ての情報を収集・保管していると日本の総務省との会議の場で語ったという…。「FACTA報道」などが最たるものであるが、実際のニュースソースを発見することはできなかった為、半信半疑であった。スノーデン事件のように外部から告発されたのでもなければ、それを韓国政府筋が認めることはしないと考えていた…。2014年9月16日に朴大統領が、国務会議で「国民を代表する大統領への冒とく的な発言が度を超している…、国家の威信低下と外交関係にも悪影響を及ぼす…(略)」と発言した。韓国大検察庁は「サイバー空間における虚偽事実の流布対応案」をまとめた。

もう既に身近なところで目で見えないインターネットの中で争いが起きている世の中だ。サイバー空間とリアル世界の融合が進むに連れて、様々な対策・工夫を実行しリテラシーは必須のものになっている…と思う。